

愈々給付實施となつた

健康保險の立役者四人

— 政府の意嚮と醫界の要望 —

X Y 生

歲月に閑守なしは新しからぬ養辭だが、健康保險法發布されて茲に春秋六年、愈々給付實施の今日今日を迎へた。醫業の危機と嘆び、革命と叫び、劃時代と稱し、鳴物太鼓に不足なく幕は切つて落された。現はれ出でたは鬼か蛇か、未だ見極めはつきりまいが、政府醫界の立役者として長岡、湯澤、北里、北島の四大人を拉し來つて切捨御免の管見録を此處に御披露申上げ。新しからの題目とあらば、それは「新年相變らず」と御諒恕を仰ぐだけ。

長岡長官

時めく社會局長官の長岡隆一郎君は、復興局長官の堀切善次郎君、臺灣民政長官の後藤文夫君と相並んで内務品の三人男と呼ばれ、五斗米の吏僚連義望の的となつて居ることは周知の通りだ。文化の先驅長崎に生れ、とつて四十五歳の男盛り、明治四十一年に東大法科の政治學科を出て直ちに官海に入り、泳ぐこと十有八年、五年前に土木局長として勤任へ漕ぎつけ、更に一昨年外局として次官と同地位である社會局に長官として拔擢せられた。此の異數の躍進は、見るからに頼々しい君の體軀と共に洋々たる前途を想はせるに充分だ。

四十一年の同期同科を出た百四十人の中で君は第六番の成績だ、一番が鳩山秀夫君、二番が榎重遠君、共に學者として君は趣を異にし、三番四番を除いて五番に山田準次郎君

が居る、紹介する迄もなく現衛生局長として芳名？香はしい山田君その人である。その次が吾長岡君である。試に同期生中の眼星しい所を拾つて見ると、何れ勅任級で

石黒忠篤(忠應子の御曹子で農林省農務局長) 武部欽一(文部省教務局長) 野本正一(逓信局長古字田品(元香川知事) 齋藤宗宜(宮崎知事) 梅谷光貞(長野野で問題を出した知事) 佐藤復三(元佐賀知事) 高橋守雄(長野知事) 藤田(千葉知事) 永井準一郎(元大分知事) 河田烈(逓信局長) 杉村陽太郎(公使) 後藤文夫(臺灣民政長官) 泉至剛(大藏局長) 矢吹春三(外務次官) 田子一民(元三重知事) 白根竹介(岐阜知事) 大海原重義(元岡山知事) 千葉(元三重知事) 齋藤行三(佐賀知事) 馬場 (保險部長) 湯澤三(愛媛知事) 澤三千男氏) その他富田勇太郎、川久保修吉、齋藤長衛、原田維鐵、橋爪精一の諸氏がある。



何れも官海の花形

今を盛り中の連りである。その中から巔然頭角を現して居るのは、正に三人

男の名を取かしめられないものである。而かも鮮々たる連中の多くが既に夫々政黨色に染つて、アトラ働き盛りを浪人して居る者が少くないのに逸早く次官級迄に漕ぎつけて若槻老や床次老、さては水野老などの色眼を巧みにソラして居る所は、仲々の凄腕と申してよい。

仙臺の關東北大會で「私が藥品法案の所謂長岡案の長岡で——、然か坊主が憎くけりあつと御仰言らずに……」と碎け、「日醫」の總會では「醫師諸君の法律通又政治的手腕は驚くべきもので、爲めに吾々の進路を奪はれて仕舞ひさう」など、世辭諧謔を軽く飛ばせて、由來唯我獨尊流の醫師先生をアツト云はせるあたり、只だの五斗米でないのは云はずもがなだ。先の内府平田東助伯が「是非吾娘を」とと賣込んだのも故あるかなで首肯れやう。「健保」の世に出る前の社會局は、その有する豫算は土木局の半額に及ばず、地位ばかり高いので、敬遠の意味さへ含まれて居た。長岡君も内意のあつた時一度は「土木局で結構です」と辭退したさうだが宮仕への儘ならず、本省を出て一寸外様の恰好となつて居た所へ社會政策を高唱する現内閣が看板の手前、緊縮方針の除外例として健康保險法を生かした。年二千萬の豫算を預る長岡君の得意や思ふべしだ。湯澤君以下君の陣立を整へて得意の政治手腕を社會政策の方面に振ひつゝある。政友本黨などでは既に堂々と社會省の實現を主張して居る。君も定めし働き甲斐のあるこさだらう。併し、醫界に對する理解の程は今以て海のものとも山のものとも相分らぬ。

湯澤部長

保險部長湯澤三千男君をして忌憚なく言はしめたなら「醫者なるが故にその人を信用するを得ず、又



その人格を信用するを得ず」といふやうなことをウツカリ漏すかも知れぬ。自ら稱する通り衛生局に而壁九年の苦業を積んで、儕輩の華かな躍進を白眼視して居らねばならなかつたのが、昨年四月「健保」の實施準備と共に一躍抜かれて社會局長に任ぜられた。四十五年組で勤任の皮切りを演じたのは衛生局に根が生へたかと思つて居た吾湯澤君である。その理由は衛生行政に特に通じて居るからであつた。更に分りよく云へば醫者等の内幕を知り抜いて居るからといふのであつた。然らば湯澤君果たして開業醫生活の裏も表も知らぬ所なしと自信するや否や。醫業國營論の一篇に依つて開業醫制度の不備缺陷を指摘した外に、屢々種々なる機會に於て意見を漏らして居るが、説く所は遂ひに

醫師不信用論の結果を爲すものではあるまいか。これは餘りに筆者が湯澤君の心中を忖度し過ぎた言であるが、能く知る人必しも同情者でないことを銘記して置くことは決して無駄でない。

湯澤君が舊藥劑師會に臨んで、分業促進に餘念もない連中をして喝采措く能はざらした演説の内容を茲に解釋してカレコレ申す程の野暮でもないが、日本醫師會と所謂紳士條約を締結したと高唱する人が、藥界に向つて諸君のやり様によつては醫藥分業は容易であるといふやうな暗示をなしたとすれば洵に變なものである。若し斯界に「湯澤君が部長だから斯様な好條件で契約が出来たのだ」など、何が好條件か知らぬが有頂天になつて手前味噌を並べて居る人があるとしたら、筆者は敢へて次のやうな臆測を聞かせてやり度い、契約成立の前、社會局方面で、假りに次のやうな會話がとりかはされたとする。

甲「マア一言以て謂へばですな、醫者の社會だけが、近代思想の推移から取り殘されて居る」

乙「詰りり度いだけり、自分の感情次第で度い時に幾分進んで居るのを非常に得意がつて居るのだネ」

甲「今日の下層民は進んを受けろことを欲しない、又、眞の社會政策は慈善事業ではない、此の邊の事情が殆ど列つて居ないのだから話しがし難い」

乙「丸で封建時代の儘だネ、尤も國家も放任に過ぎた罪がないさよ、云へね」

甲「今度を機會に國家の治政機關といふものを全然放任であつたのだから漸次改めるさいふ方針を確立するのだ」

乙「これだけで引受けるかどうかき聞くのだから勝味はこちらに充分ある、厭ならよせミソ放してやるだけだ」

甲「然かして二百萬人の診察をするには醫師會の手を藉りずに完壁を期する方

法が一寸見當らぬ、腹勢といふものは
強ろしいもので、今日醫師會に反對さ
れるさからず面倒だ。

乙「マア徐々を牽制するんだネ」
甲「醫師が何と云つても、今日國民の大
部分は一朝病氣になれば産を失ふか命
を失ふかの二途を出でないのが實際で
ある、恐ろしい事實だ」

乙「全く目前の事實で政治上の重大問題
だ、國民がこれに關して比較的冷静で
あるのを疑ふ位だ」

筆者の想像説なのだからどちららも
青筋をたて、貰ふまい。保險學者に
謂はしむれば「政府全く醫師會に降
る」程の條件を以て締結させたのも
湯澤君の骨折りであらう。「北島さん
どうかして醫師の社會も多少し改
良し度いものです」

「何！「湯澤が」といふ人も
あらうが、大河の將に決せんとする
時に當つては、因は小さくとも果は
常に大なるものであることを知るか
らである。

北里會長

一體北里會長が「健保」に就てどれ
だけ理解があるか、など、失禮なこ
とを申上げる者もあるまいが、天が
下の醫師でふ輩をしらしめず、此の
世をば吾が世とぞ思ふ男爵北里榮三
郎博士は、流石に時に臨んで親分の
名に恥ぢぬ肚を示すものだ。北島に
一切任せる責は俺が全部負ふ」と言
切つたる由。由來君子果斷に富ます
とは云はせぬ北島理事長の活躍ぶり



(男 郎 三榮里北 長 會 師 醫 本 日)

が此の間の消息を雄辯に語るのださ
うだ。

「怒ういふ噂がある、再度獨逸に遊
び「クランケンカッセ」に就ては、一
廉ならざる通を以て自ら任ずる副會
長山本治郎平老が、昨秋久しぶりこ
いふよりは初めてで役員會に臨んだ
時恰も「日醫」對社會局の交渉が相當
進捗し、取残された二三の難點を如
何にすべきか、といふ斯界の肚をき
めなければならぬ時であつた。昔か
ら、通をふり廻し
たがる者は
酒席に一
曲、會
議に

一言、必ずなかる可
からずとある。此の可か
らずに依つてなりや否やは別とし
て、兎に角山本老は「北島案」に對
して何かな溜々辯じ出した、すると
言はせも果てず「これで悪るければ
俺が腹を切ればいゝのだらう、御免
を蒙りますと云へばいゝのだらう、
意見も糞もあるものか」と吐出すや
うに一喝？してしまつた。その後は
誰も一言もして發するものがない、
しばらくして年寄役の積りでか、京
都から馳参じた菅野禿頭理事が「御
結構で、御結構で」と二度ばかり、

例の御上手で、その場を取結んださ
うだ。

更に怒ういふ噂もある、「團體自由
選擇主義といふのは日本醫師會員全
部が保險醫になることだ、只今幹部
案を承れば保險醫には權利として會
員の誰でもなれる、従つて逆に嫌な
ものは誰でも被保險者の診療を拒む
ことが出来る事になる、これでは自
由選擇も何もあつたものではない」
と醫政調査會あたりで大見得を切
り、「これといふのも幹部專制、秘密
主義の結果だ、斯界の死活に關する
大問題を餘り得手勝手に扱ひすぎる
怪からぬ」と各所に觸れまはし、舉
句の果てに會長邸へ暮夜伺候して
「實は幹部案が萬全ですが、重大問題
ですから少しは揉めたやうにして置
きませんと對外的の關係もあらうこ
存じまして」それだから進んで憎ま
れ役になりましてやうな事を申上げ
に行つた人があるとかいふ噂であ
る。これも、會長得意の一喝に逢つ
て、その後は否として幹部案反對の
噂も聞かぬ。會長の重味磐石の趣が
斯様な所にも見へるではないか」と
か「會長が事務など知る必要はない」
と理事連が悦ぶ理由にもなつて居る
譯だ。筆者曰く、北里會長は依然北
里會長也、何ぞ「健保」問題に當つ
て器局を云爲せんや」と。

北島理事長

斯くて甚だ高く止つて居る會長に
「時々は役員會へ出て頂かぬと餘り
冷淡のやうに思はれても困りますか
ら」といふやうな心配やら、吼へ出
らしては嚙付きさうな或る方面をなだ
めたり、高壓的な政府筋へ向つて特
に尻を捲くる様子を示したり、或は
若し斯界に無茶な智識しかない人々
があると思はれば之に諄々と誨へた

り、然り而して契約案覺書案を造り
上げた北島理事長博士。可愛い子に
は旅をさせろ、苦勞はして見るもの
(社會局保險部醫課長古瀬安俊氏)



で、一學究が何時しか押しも押され
ぬ政治家となり、その人格と相俟つ
て愈々磨きがかゝつて來たことは争
はれぬ。殊に「健保」交渉を終へた今
日に於て然りとす。斯界にとつて
も幸慶と申すものであらう。

忌憚なく申せば「日醫」幹部の御歴
々 (日本醫師會理事
長北島多一博士)



々中にも有能無能三十人十色の人
居る。菅野京都や貞木大阪は別とし
て、八木、渡邊、寺邑、岡田、田村

上野、三輪、鳥居の面々を主宰して
事「健保」に關するや流石明晰の寺邑
君をして一言も發せしめないのは、
蓋し要するに徳の力であらうか。所
謂紳士條約の内容を是非して功罪を
論ずるのは未だ早い、申す迄もなく
事は全く未達の施設で、これに日本
特有の醫療制度を樹てたものだ、と
つて以てこれを海外の人情風俗にあ
てはめて論ずるにも餘程注意を要す
る、豫算案を「全くメノコ算が多い
のでして……」と苦笑し乍ら説明し
た理事長の苦衷は察すべきである。
社會局の意圖と醫界の要望、此の微
妙にして重大な折衝を一身に負つて
會長が腹を切つて責任を負ふと任せ
られたのだ、恐らく北島博士生涯に
於けるエポックメーカーキングの仕事で
あらう。

而して今や生みの樹みから育ての
苦勞へ移り、愈々健康保險部長とし
て事業遂行上の責任を負ふ管の博士
は仕事始めの閑な間を縫かに都合し
て來月下旬から半歳の外遊を試み
る。表看板は狂犬病豫防會議だが、
實は先進國の社會保險を調査して、
成敗の跡を尋ねることといふ迄もな
い。創業守成、孰れが難きか、一
に懸つて理事長博士の双肩に在る。
斷る迄もなく博士は醫界の代表者で
あつて、社會局の傀儡ではない。故
に博士の成功は醫界の萬歳といふ事
が出来ぬ。どうか博士を助けて斯く
あらしめ度いものだ。

醫師會に寺邑毅一君といふ傑物が
居り、社會局に古瀬安俊君といふ俊
才がある。蔭に在つて此の度の契約
を大成せしめ、且今後の準備に怠り
ないことは忘れてならぬことであ
る。